

地域とともに歩み、支えあえる公民館を目指します。地域の話題をお寄せください。

なでしこ10

令和7年度 No.7
だより 月号

発行 平塚市立なでしこ公民館

〒254-0825 平塚市撫子原12-54

電話:35-1254 ファクス:37-1061

ホームページ

平塚市立なでしこ公民館

検索

公民館ホームページでは、
カラー版を掲載！

令和7年度 家庭教育講演会 共催:平塚市中央公民館・平塚市PTA連絡協議会

「自分で決める」 ができる子に ～子どもを信じて待てる親になる＜待ちよみ＞～

情報過多社会の中で、子育てや生き方に不安と重圧を持つ人が増えています。「知っていること」ではなく、「できること」を着実に積み重ねること
で幸せに結びつく「シンプルな子育て・生き方」にアプローチします。本講演では、人間（子ども）が持つ「自ら育つ力」を尊重し、コントロールす
ることなく見守り待つことの大切さを、わかりやすくお伝えします。

<講師プロフィール>



手話通訳
・
要約筆記 あり



1974年大阪生まれ。流通不動産業界勤務を
経て、子どもの入園を機に2011年に絵本講
師資格を得て、各地で講演活動を行う。講師
として自治体家庭教育事業、ブックスタート
事業、読書推進事業などで講演。幼稚園や保
育園での講演も多く保護者向けに加え、近年
では教職員研修講師も担当する。

令和7年12月5日（金）18時30分～20時00分
（開場18時00分 入場無料・要整理券）

会 場：平塚市中央公民館 大ホール（平塚市追分1-20）

講 師：内田 早苗 氏

定 員：700人 ※申込多数の場合、平塚市在住者を優先とした抽選

申 込：令和7年11月6日（木）までに申込フォームから申込みまたは市内各公民館にある申込書を各公民館窓口にご提出ください。

その他：入場整理券（抽選結果）は11月28日（金）までに郵送します。お子様連れでもご参加いただけます。また、お子様連れで
の聴講にご理解・ご協力をお願いいたします。駐車場には限りがあります。ご来場の際は、公共の交通機関や自転車等でお越
しください。



申込フォーム↑

公民館・福祉村などの予定カレンダー

日	曜日	スケジュール
10月		
16	木	(福)(ウ)(あ)
17	金	(福)
18	土	(福)(図)(暮)
19	日	
20	月	
21	火	
22	水	(福)(パ)
23	木	(福)(ウ)(ぬ)
24	金	(福)
25	土	(福)(図)
26	日	
27	月	
28	火	花壇の植替え
29	水	(福)(パ) みんなでうたおう
30	木	(福)(ウ)
31	金	(福)

日	曜日	スケジュール
11月		
1	土	(福)(図)(暮) なでしこ ファームさつまいも収穫
2	日	
3	祝	
4	火	
5	水	(福)(パ)
6	木	(福)(ウ)(あ)
7	金	(福)
8	土	(福)(図)(暮)(お)(編)
9	日	福祉ふれあい広場
10	月	
11	火	なで散歩
12	水	(福)(パ)
13	木	(福)(ウ)(ぬ)
14	金	(福)(手)
15	土	(福)(図)(暮) なでしこ ファームたまねぎ苗植え
16	日	

公民館（自主事業）

こども囲碁教室

10月4日（土）、11日（土）、18日（土）

11月1日（土）、8日（土）、15日（土）

9時30分～11時30分

教室には小学生から中学生まで幅広い年代の子ど
もたちが参加しています。

初心者の方も大歓迎です。ぜひ、遊びにきてください。



子育てサロン「あ〜んとあんと」

10月2日（木）、16日（木）

11月6日（木）、20日（木）

10時～11時30分

0、1、2歳児をもつお母さんたちの

「出会い」「和」「巣立ち」を応援します。

お父さんも参加しています。お気軽にご参加ください。



(福)：福祉村開所日 10時～正午 13時～15時

(パ)：パークゴルフ開催日 10時～正午

(ぬ)：大人のぬり絵 13時～15時

(あ)：子育てサロン「あ〜んとあんと」10時～11時30分

(ウ)：なでしこ公園ウォーキング 10時～11時

(手)：手作りサロン 13時30分～15時

(編)：編み物の会 10時～12時

(お)：おはなし会 14時～14時30分

(図)：図書ボランティア活動日 14時～16時

(暮)：こども囲碁教室 9時30分～11時30分

なでしこ公民館のイベント

公民館（シニア学級）

地元を探検!

なで散歩～なでしこ地区の歴史風景～

今回は鎌倉時代のなでしこ地区をなで散歩。

≪日 時≫ 11月11日（火）9時30分～11時30分

（9時20分なでしこ公民館集合）

≪対 象≫ なでしこ地区在住の60歳以上の方 10名程度

≪持ち物≫ タオル、飲み物等。歩きやすい服装。

≪講 師≫ 中條 利昭さん「なでしこ地区の歴史風景」連載者

≪申込み≫ 10月20日（月）9時からなでしこ公民館窓口、または
電話（35-1254）にて受付します。

≪その他≫ 雨天中止（小雨決行）。中止等の場合は前日17時頃までに
参加者にご連絡します。

公民館（家庭教育学級）・なでしこ地区社会福祉協議会 共催

土いじり
自然体験学習

なでしこファーム

全2回講座！～たまねぎの回～

≪日 時≫ 苗植え：11月16日（日）10時00分～11時00分頃

収 穫：4月25日（土）10時00分～11時00分頃

≪対 象≫ 申込時になでしこ地区在住の就学前～小学生の子とその親
苗植えと収穫「両方参加できる方」20名程度（抽選）

≪参加費≫ 無料（なでしこ地区社会福祉協議会の協力による）

≪申込み≫ 10月26日（月）までに二次元コードからお申込みください。

≪その他≫ 予備日、持ち物等の詳細については、申込画面で確認を
お願いします。※畑の提供 清水 文夫 氏



←申し込みはこちら

タマ・ネギ男



おはなし会

■10月11日（土）14時～

会場：なでしこ公民館2階和室

○おはなし「お経をわすれた和尚さん」

○絵 本 「ぼんぼんやまの月」

○紙芝居 「カラスのかんむり」

♪次回のおはなし会は11月8日（土）に開催します♪

※内容は予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。

大人も子ども
大歓迎!!

地区社会福祉協議会からのお知らせ

皆さまの来場を
お待ちしております

第38回福祉ふれあい広場

≪日 時≫ 11月9日（日）10時00分～14時00分

≪内 容≫ バザー、健康相談、地域団体協力による模擬店 等

≪会 場≫ なでしこ公民館・なでしこ公園

≪その他≫ 福祉バザーへ寄贈いただく品物については次のとおり
新品または未使用の日用品

11月5日（水）～11月7日（金）10時～12時、13時～15時
町内福祉村（なでしこ公民館内）へお持ちください。

≪問合せ≫ なでしこ地区町内福祉村（電話：35-1328）

公民館（シニア学級）・福祉村・しおさい 共催

懐メロを
うたおう

みんなでうたおう



≪日 時≫ 10月29日（水）13時30分～15時00分

≪対 象≫ なでしこ地区在住の60歳以上の方 20名程度まで

≪会 場≫ なでしこ公民館 図書室

≪申込み≫ 10月15日（水）9時から受付開始

なでしこ公民館窓口、または
電話（35-1254）にて受付します。

≪協 力≫ 小規模多機能型居宅介護施設 しおさい



公民館（自主事業）海と山の公民館5館 共催

海と山の探検隊



11月22日（土）、23日（日）（1日目は海の探検、2日目は山の探検）
海の探検では、船で海上周遊、プチ魚釣り体験等。山の探検では、大自
然の中でカレーを作り、ウォークラリー等を予定。2日間参加できる小
学校3年生～6年生の児童とその保護者の方が対象です。詳細は、申込
画面（上記二次元コード）か小学校で配られるチラシをご覧ください。

子どもたちの学習応援事業～学習スペース開放中～

原則、毎週日曜日と水曜日のサークル利用のない時間

サークル利用が入るとご利用できないため、事前のお問い合わせを推奨します。
（なでしこ公民館 ☎ 35-1254）

なでしこ地区の歴史風景78「少國民 みんなで飼はう 軍用兎」

軍用兎（ぐんようと）とは、軍需品として主に兎毛皮生産のために飼育された兎（ウサギ）のことで、昭和12年（1937）、支那事変が勃発してから、徐々に戦域が満州奥地の極寒地にも拡大したため、皇軍（我が国の帝国陸海軍の称）に防寒用具を供給することが急務になった。軍用兎の供出は、皇軍の作戦に支障を来さないための「銃後國民の責務」とされた^{（注1）}。

『横浜貿易新報』（昭和13年1月）「皇軍将兵に贈る 野兎の毛皮七百枚 本県から第一回分を献納」同年3月「軍用兎繁殖 市の奨励運動」同年9月「家兎の増殖 県下に広く講習会」の見出しがある^{（注2）}。家兎飼育は、出征家族の副業としても奨励された。「一匹増やすも御奉公」と、地方自治体が率先して家兎講習会を開き、軍用兎の増殖増産を図ったのである。

昭和14年1月「兎料理講習会」同年2月「兎の肉召上れ」の見出しの記事に、「非常時下栄養食兎肉家庭料理講習会」が開催されたとある。兎の毛皮は将兵に、兎の肉は低価で市民の需要に応じた。市内には「うさぎ」と大書した看板を掲げた飲食店が開店した。

同年11月「県下各中学校で 養兎事業を実施 軍用兎毛の充実を期し」には、当時の「平塚農業」「平塚商業」「平塚家政女」「鈴木裁縫女」などが学業の余暇に兎を飼育した。この頃、「農林省・大政翼賛会・帝国農会」が「少國民 みんなで飼はう 軍用兎」のポスターを出している。

同月「兎の毛皮大切 剥皮、乾皮の講習」が開催された。毛皮一枚でも損じないで、更に上等なものとする目的であった。平塚市農会は「軍用兎処理所」（吊された兎の毛皮の写真が掲載されている）を建設した。

『神奈川県新聞』（昭和15年12月）「養兎の増産に畜産組合乗出す」とあり、昭和16年1月「軍用兎供出」には、平塚市農会が市内各小学校に総計軍用兎3000羽、アンゴラ1000羽の飼育を割り当てた。この頃、文部省も中学校・青年学校・小学校に軍用兎の飼育を奨励した^{（注3）}。

同年10月「表彰さる『兎の村』 軍兎祭^{マム}當日中郡神田村」には、帝国農会主催の第1回軍兎祭で中郡神田村養兎組合が表彰されたとある。

『神奈川新聞』（昭和18年2月）「アンゴラ兎増産」とある。アンゴラ兎毛は、航空機用フェルトなどに使用された^{（注4）}。

昭和19年（1944）頃になると、軍用兎だけでなく、犬・猫の供出・献納がおこなわれ、集められた犬・猫の毛皮が兵士の防寒具・航空服・航空帽などの材料となった^{（注5）}。

（注1）『職場家畜の飼ひ方』（大日本産業報国会 昭和18年）『写真週報』134号＜兎の皮総動員＞ 昭和15年 『写真週報』188号＜兎は大切な軍需品＞

（注2）『横浜貿易新報』以下『神奈川県新聞』『神奈川新聞』の記事については「神奈川新聞社WEBマイクログリッド」（平塚市図書館）による。

（注3）『大磯町史7』

（注4）「軍用兎」日本アンゴラ兎研究会

（注5）「アジア太平洋戦争下犬、猫の毛皮供出献納運動の経緯と実態」西野秀子 「犬毛の調査に関する件」（『茅野市史』） 「軍需野畜犬、猫毛皮供出割当ニ関スル件」（「北海道庁公報」）



軍用兎飼育（『大日本国防婦人会記念写真帖』昭和17年）

中條利昭（なでしこ地区在住）

講座のお申込みでいただいた個人情報は、その事業に関係する事務、連絡のみに使用します。また、講座の様子を記録した写真等は、講座の開催の記録として、公民館だよりやホームページ、その他メディアに掲載されることがありますのでご了承ください。